

昭和の初めに途絶えた『小倉織』を復元、新たな可能性を切りひらく。



徳川家康も愛用したという小倉織を復元

徳川家康も愛用したと伝えられる『小倉織』は、江戸時代初期から豊前小倉藩の特産として、袴や帯などに珍重されてきたが、時代の流れの中で次第に衰退、昭和初期には途絶えてしまった。

そうした中で1984年、染織家の築城則子氏が、よこ糸に対し3~4倍のたて糸が醸し出す鮮やかなたて縞が特徴である小倉織を手織りで復元。「丈夫な綿織物、この特徴ある織物を現代でも使って欲しい」と築城則子氏の妹にあたる(有)小倉クリエーション社長の渡部英子氏がその機械織りの開発に取り組み、2007年に工業化に成功したのが小倉織『縞縞 SHIMA-SHIMA』である。

この『縞縞 SHIMA-SHIMA』は、極めて良質な純白な生綿から紡いだ木綿糸を先染めして織る手法を、織り巾140cmの機械織りで実現したもので

あり、大変手間と時間がかかる密で丈夫な生地である。また、先染めかつたて糸が密であるという小倉織の特徴を最大限に引きだし、見事な色のリズムを生む築城則子氏のデザインによる上質な柄と質感が最大の特長になっている。

小倉織の特長を生かし50種類の商品を開発

『縞縞 SHIMA-SHIMA』は、丈夫でしなやかな質感の木綿布、また2007年福岡産業デザイン賞大賞を受賞した洗練されたデザインという特長を生かし、様々な市場へその用途を広げている。

ハンカチや風呂敷などの布製品、ポーチや財布、トートバックといった身の回り品、キーホルダーやストラップ、ブックカバーなどの装飾雑貨類、またネクタイなどのアパレル用品、さらにカーテンや座布団カバーなどインテリア用品などにもその用途は広がり、現在およそ50種まで品揃えが拡大している。

商品を取り扱う販売店も地元北九州の百貨店をはじめ、東京の有名文具店やデパート、また美術館のいわゆるミュージアムショップなど、こだわりをもつ人が集まるおよそ20箇所に販路が拡大している。

「感度のいいユーザーが縞縞と出会い、そこで手にした商品が小倉織と知る。そんな意識の高い環境の下で良質な商品を販売していきたい」と渡部社長の販売政策は明快である。

記念品や和テイストの内装演出材、さらには海外市場への展開も始まる

販売店を通じた小売と共に、渡部社長が力を入れているのは、企業などの記念品としての需要である。地元小倉高校の同窓会の記念品にブックカバーや扇子、また北九州に進出した大手自動車会社の記念品として風呂敷や文箱が採用されたりと、地元北九州発の凛としたデザインと質感が記念品としての顧客ニーズを喚起している。

また、今年に入り、落ち着いた洗練された和テイストのデザインが評価され、県内のデザイナーズブランドのホテル客室への採用が決まり、今後は、空間を演出する内装材などへの応用も大いに期待できであろう。



代表取締役社長 渡部 英子氏
1986年、有限会社布アネックスを設立。テキスタイルショップの運営を手がける。1996年、有限会社小倉クリエーションを設立。代表取締役社長に就任。小倉織の普及を経営理念とし、伝統をふまえた新しい小倉織「縞縞」のブランドを立ち上げる。今後、国内外で認知されるブランドとなることを目指している。

さらに、同社は海外市場の開拓にも意欲的に取り組んでいる。2008年には、経済産業省が後援する「生活関連産業ブランド育成事業」に選ばれ、フランクフルトでの見本市に出展、また2009年2月には、北九州市の支援で出展した同じ見本市でスイスの業者の目にとまり、現在、販売代理店契約を結ぶ方向で商談が続いている。近い将来、北九州発の小倉織が海外に市場を拡大することも大いに期待される。



消費財専門国際見本市「アンビエンテ」 於：ドイツ フランクフルト

有限会社 小倉クリエーション

小倉織を使った製品の開発、製造、販売



企業概要	DATA
企業名	有限会社小倉クリエーション
代表者	渡部 英子
所在地	北九州市小倉北区大手町3-1-107
TEL	093-561-0700
FAX	093-561-9119
資本金	300万円
創業	1996年
従業員数	8名
事業内容	織物の製造及び服飾デザインの企画研究、開発 織物及び装飾雑貨の加工、販売、輸出入

マーケティング 専門家の

『縞縞 SHIMA-SHIMA』は、伝統ある小倉織を確かな品質の機械織りで復元した唯一の製品であり、高いオンリーワン性が認められる。先染めかつたて糸が密であるという小倉織の特徴を巧みに引き出した染織家、築城則子氏のデザインによる上質な柄と質感は、今後北九州にとどまらず日本国内、さらには海外の顧客に対しても大きな喜びを提供する商品に育つ可能性を秘めていると思われる。